

大殿まちたんけんをしよう

～ぼくの・わたしのおすすめの場所を見つけよう～

教科・領域 生活科

山口市立大殿小学校 2 学年

キャリア教育の観点

この取組は、大殿の町探検を行うことをとおして、町にはどんな店や公共施設があるか、そこではどのような仕事が行われているのか、仕事をしている人はどのような願いをもっているのかを知り、働くことの意味や働く人の人柄に触れて、大殿の町のすばらしさを実感させる活動です。

【人間関係形成・社会形成能力】

事前準備

子どもたちの興味関心を考慮しながら、1 時間程度で調べることができる店や公共施設を決定した。店は、ヤマコー醤油、山一薬局、和菓子の菊寿堂、山田生花店、かずやクリーニング、杉山畳店、むらた指物工房、和菓子の風月堂、パン屋のウィート、昭ちゃんコロッケの 10 店舗。公共施設は、ふるさと伝承総合センター、一の坂デイサービスセンター、シルバー人材センター、大殿地域交流センターの 4 施設である。事前に各店舗・公共施設に見学の可否を尋ねるのは、大殿小学校の地域コーディネーターが行い、正式な見学依頼状も同コーディネーターに届けた。以前は、担任が手分けをして各店舗等と折衝をしていたため、かなりの時間を費やしていた。地域をよく知っているコーディネーターの尽力により、担任の負担軽減だけでなく、見学場所も広がり、より学習内容を充実させることができた。

探検グループの決定

はじめに、大殿の町で行ったことのある店や施設を発表し合い、行ってみたいなという気持ちを醸成していった。その後、地図を見て見学できる店や施設を紹介し、2 学年みんなで 1 回目の探検を行った。地図と店や施設を照合させ、道を覚えた。また、店などを外から見たり、簡単な説明を聞いたりして、もっと知りたいという興味・関心がふくらむようにした。

次の時間は、実際に見てきた店や施設の写真を参考にしながら、詳しく調べてみたい場所を決めていった。一方で、子どもたちのグループ探検の安全を確保するために保護者の方々から引率のボランティアを募った。そして、子どもたちの見学希望場所と引率ボランティアに応募してくださった保護者の割り振りを考慮して各組 7 グループのグループ編制を行った。

グループ編制後、次のことをグループ毎に決めた。

- ① 見学先……店と公共施設の両方を含め、3～4カ所決める。
- ② 調べる内容……何を見てきたいのか、何を聞いてきたいのかを考える。
- ③ 道順……時間内にまわれるように効率を考えて決める。

④役割分担・班長、副班長、保健、時計、安全歩行の各係を決める。

見学先での挨拶、質問の分担をする。

⑤グループの約束……安全に協力して探検できるようにするための約束を決める。

調べたいことの検討に際して、子どもたちは、材料や作り方や、売れ筋に興味が集申しがちであった。その思いは尊重しつつ、働いている人はどのようなときにうれしいと感じるのか、どのようなことに気をつけているのかなど、働きがいや人柄に触れることができるように助言した。

また、決める過程では、他者の思いを受け止めることができずに言い合いになったり、他者の意見を聞かずに自分の思いだけで決めてしまったりする場面もあった。その都度、話し合いをもって解決し、他者の思いを尊重することやみんなの意見をまとめて決めていくことなどを子どもたちは学んでいった。

グループ探検

いよいよ、グループ探検当日である。ボランティアの保護者の方々に挨拶し、子どもたちは、班長が先頭になって意気揚々と探検へ出発した。

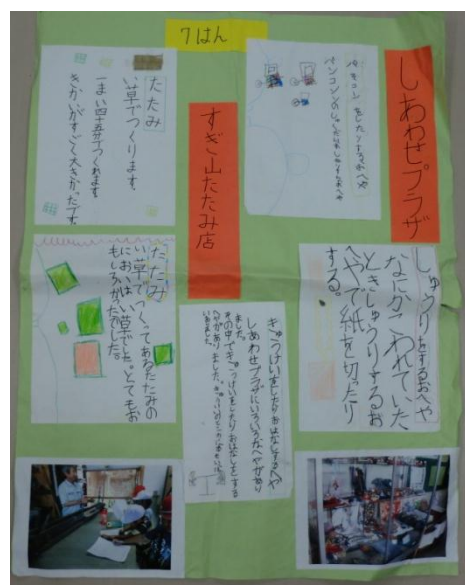
「かずやクリーニング」では、洗濯工場内に入れてもらい、大きな洗濯機や人型のアイロンでワイシャツを乾かす様子を見学させていただいた。「すぎやま畳店」でも、畳のミミをつける作業を実演して見せてくださった。「むらた指物工房」では、どのように木を組んでいくのか見本を用意して見せてくださった。「ふるさと伝承総合センター」ではゲンジボタルの飼育場を見学させていただいた。「一の坂デイサービスセンター」では施設の方の説明だけでなく、通所している方々と話したり、握手したりしてふれあうことができた。

「シルバー人材センター」でも、障子の張り替えの実演を見せてくださった。和菓子屋さんが2軒あり、その中の1軒はお茶会の和菓子を中心に扱っている店で、大殿ならではの地域性が反映されている。どの見学場所に行っても、親切にこやかに教えてくださった。子どもたちは、仕事の内容のおもしろさに加え、地域の大人達の思いやりの中で暮らしているという実感がもてたのではないだろうか。

探検のまとめ

探検の後には、まず、一人ひとりが学んだことを個人でまとめた。見学先へのお礼の手紙も書いた。その後、詳しく発表したい店や施設を選んで、同じ場所を選択した子どもたちで新たなグループを作り、発表準備に取りかかった。

発表の仕方は、クイズ、壁新聞、ニュース形式などいろいろである。一番伝えたいことを工夫



してまとめるようにし、クラス内で発表会を行った。このことにより、探検の楽しさや地域で働く人たちのすばらしさを振り返るとともに、自分たちのグループが行っていない店や公共施設についても知ることができた。

「アートふる山口」での発表

最後に、再び個人で、一連の探検の中で、もっとも心に残った店や公共施設を、「ぼくの・わたしのおすすめの場所」としてまとめ、「アートふる山口」に発信した。このことにより、地域の方にも大殿のすばらしさや、子どもたちの学びを見ていただくことができた。



考察・課題

この活動をとおして、子どもたちは、町にはどのような店や公共施設があるか、そこではどのような仕事が行われているのか、仕事をしている人はどのような願いをもっているのかを知り、働くことの意味と働く人の人柄に触れて、大殿の町のすばらしさを実感できたと思う。

本校は、地域コーディネーターの活躍に助けられ、どの学年においても地域の人と連携した活動が盛んに行われている。様々な職業の大人と触れあうことは「自分もやってみたいな」という夢を育む一助となるだろう。

課題としては、「アートふる山口」への発信の仕方にもっと工夫ができないかということがあ。今年度も、もっと効果的な発信はできないものかと考えたが、新しい形を創るまでには至らなかった。一人ひとりの学びを大切にすると同時に、アピール性のある発信ができるようにしていきたいと考えている。